



平成21年度情報処理軽井沢セミナー

SSO推進における図書館員のコミットメント

国立情報学研究所
学術基盤推進部 学術コンテンツ課
阿藪品 治夫



このコマの内容

- イントロ
- **Federation**参加のメリット
- **SSO**のデモ
- 図書館員がやることは何か
- 事例紹介
- ディスカッション



イントロ

3つのキーワード

- ☑ 国際標準による認証方式の共通化

= Shibboleth (シボレス)の実装。

- ☑ 電子ジャーナルやDB毎の面倒なユーザ認証からの解放

= SSO (シングルサインオン)を実現。

とにかく
これ!

- ☑ 利用機関と提供機関による連合体で共同運用

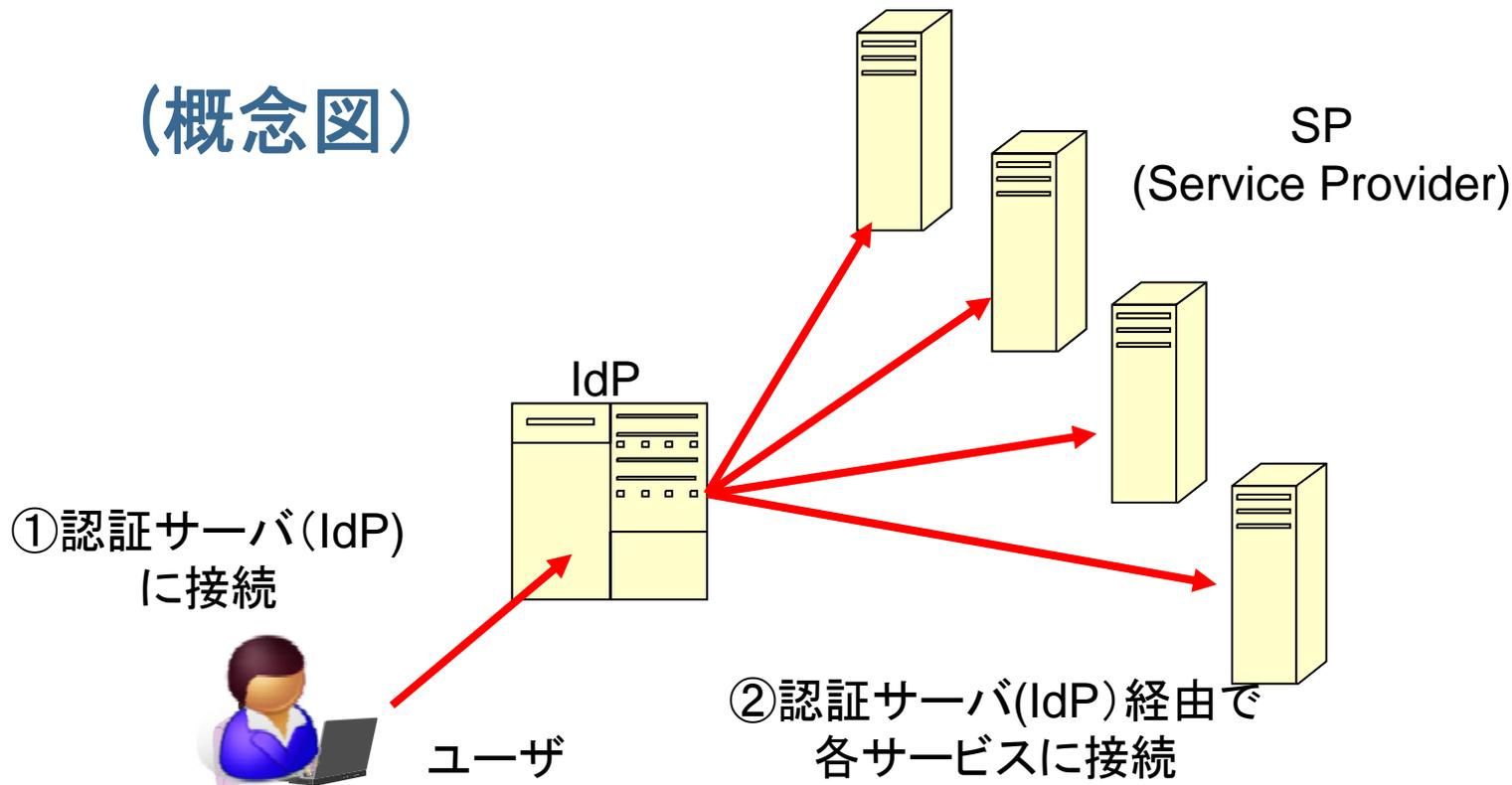
= フェデレーションの構築・運営。

SSO(シングルサインオン)について

シングルサインオン single sign-on

- 利用者が、1回のログイン手続きで、認証を必要とする複数のサービスを利用できるようにする仕組み
- 代わりにその1回のログイン手続きは十分セキュアにする

(概念図)



シングルサインオンの流れ

各大学の
利用者

電子ジャーナル等

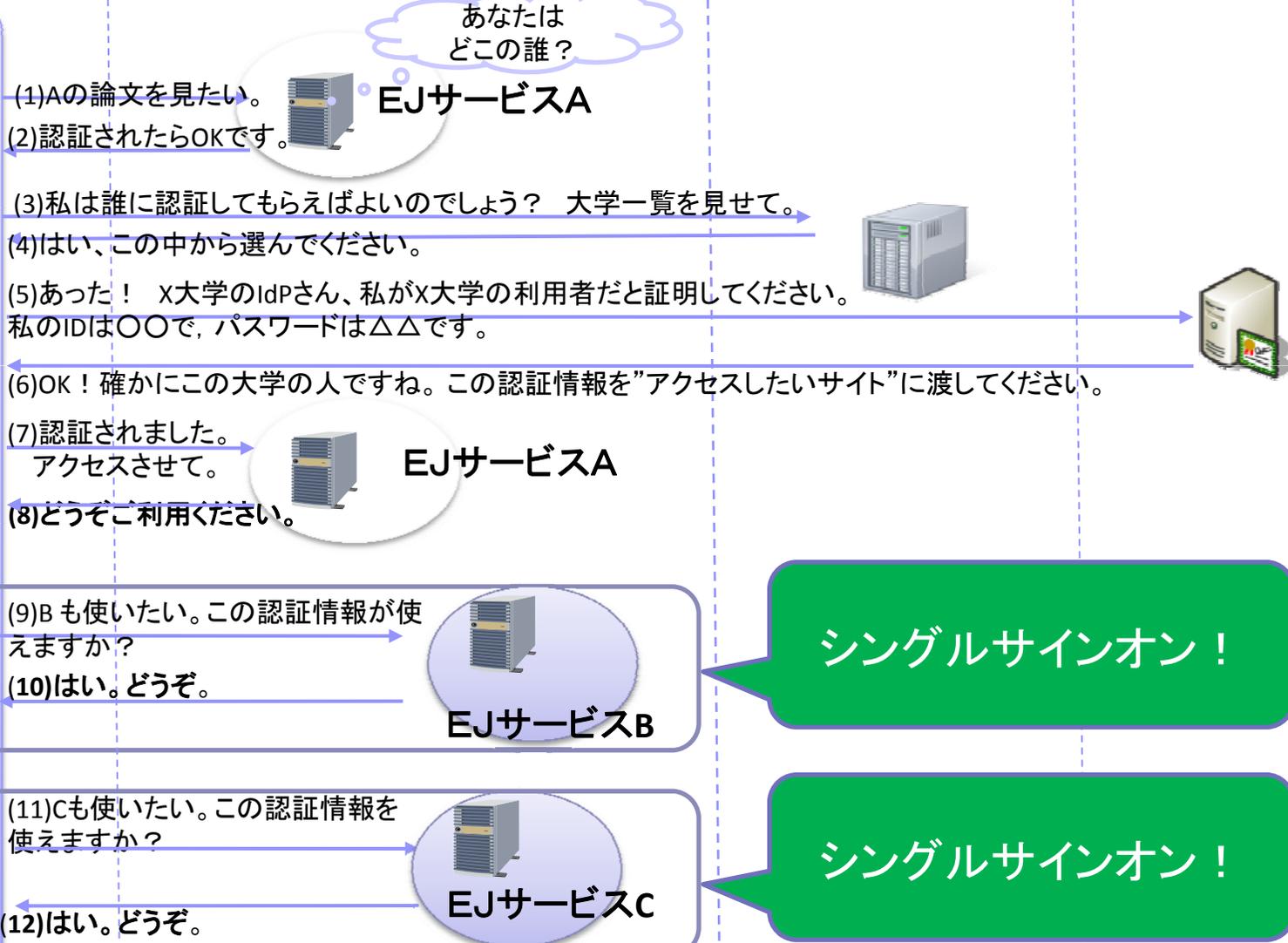
IdP一覧表示(DS)

所属する大学のIdP
(Xdaigaku.ac.jp)

各大学の
利用者



利用者



現実のEリソースを当てはめると

各大学の
利用者

電子ジャーナル等

IdP一覧表示(DS)

所属する大学のIdP
(Xdaigaku.ac.jp)

CiNiiの有料論文が見たい。

認証されたら見られます。



私のIDは〇〇で、パスワードは△△です。

OK！確かにこの大学の人ですね。

認証されました。

どうぞご利用ください。



利用者

Science Direct の論文も見たくなった。

認証済ですね。どうぞ。



RefWorksの文献リストを更新したくなった。

認証済ですね。どうぞ。



1度の認証で、
2度、3度・・・おいしい。

Shibboleth対応を標榜するベンダ — 大手有名サービスは軒並み対応 —

Information Providers:	Learning Management Systems:	Other Systems:
<ul style="list-style-type: none"> • American Chemical Society • ArtSTOR • Atypon • CSA • Digitalbrain PLC • EBSCO Publishing • Elsevier ScienceDirect • ExLibris • H.W. Wilson • JSTOR • The Literary Encyclopedia • Metapress • NSDL • OCLC • Ovid Technology • Project MUSE • Proquest Inform • Serials Solutions • SCRAN • Schweizerisch • Thomson Gale • Thomson Reuters • Useful Utilities 	<ul style="list-style-type: none"> • Blackboard • CLIX • Frontier • ILIAS • INSTRUCT • Moodle • OLAT • Sakai • WebAssign • WebCT 	<ul style="list-style-type: none"> • Bodington.org • Condor • Confluence Wiki • Darwin Streaming Server • Drupal • DSpace • eAcademy • Fedora Repository • Google Apps/Email • GridSphere • GridShib • Higher Markets • Horde • et • mail • share • a Wiki • isoft • oxy • ter • AA • epoint® from Microsoft • PA • licity • ln • i • al • WordPress • Zope + Plone\

学術認証フェデレーション参加ベンダ (H21.7現在)
 Elsevier(SCOPUS, ScienceDirect)
 Springer(LINK), LWW/Ovid, EBSCO,
 Thomson(WoK), RefWorks, CUP,
 CiNii

* “<https://spaces.internet2.edu/pages/viewpage.action?pageId=11484#ShibEnabled-nsdl>より引用



ユーザに必要な物はたった2つ

☑ インターネットが使える端末

☑ 1種類の自分固有のID/パスワード

を忘れないこと



きっと皆がHappy

- ☑ ユーザはEリソースが使いやすくなって
Happy。
- ☑ 図書館は多くのユーザに契約コンテンツが使われて
Happy。
- ☑ ベンダは、PRにもなって、きっと契約も維持できて
Happy。





Federation参加 のメリット

IdP側 (大学) のメリット

- 情報セキュリティ基準への対応
 - コンプライアンス遵守
 - 個人情報保護などへの対応
- 個人利用者へのきめ細かなサービス実現
- シームレスなアクセス管理システム統合
- 学内・外サービスの双方に共通にアクセス可
- ID管理など運用管理業務, ユーザサポート業務の軽減

SP側 (コンテンツプロバイダ等) のメリット

- ID管理, ユーザ情報管理からの解放
 - 認証は各機関のIdP が実施
 - コミュニティや組織単位で認可できる
- ユーザサポート業務の軽減
- 情報セキュリティ基準への対応
 - コンプライアンス関連の負担を軽減
 - 個人情報保護対策を軽減
- ライセンス条件にそった適正な利用の実現
- アカウト一本化で管理負担を軽減
- 集中管理でアサーション管理負担を軽減

サービス利用者(エンドユーザ)のメリット

- 個人情報^の露出機会を大幅に軽減
- 個人情報^の保存場所が所属機関内で完結
外部流出のリスクを軽減
- マイページ等のパーソナライズ機能が充実
- 記憶すべきパスワードを減らせる



SSOのデモ



Broadcast Yourself™

検索

YouTube モバイル
こちらをクリック



ホーム 動画 チャンネル

UPKIシンポジウム2009 シボレスデモ デモ版



UPKIシンポジウム2009で行った阿蘇品治夫氏の講演「認証 基盤を活用したコンテンツサービスの展開」の後半部分のデモです。日本で初めてシボレスによる認証をデモンストレーションした歴史的な講演です。

UPKIシンポジウム2009
認証基盤を活用したコンテンツサービスの展開 デモ版

0:06 / 9:48

☆☆☆☆☆ 0 件の評価

再生回数 79 回

<http://www.youtube.com/watch?v=m6SehSUG7Go>





図書館員が やることは何か

Eリソース利用の開始まで

準備

- ・ IdP立上げ
- ・ 運用フェデレーションへの参加

ベンダに 申請

- ・ Shibbolethによる利用をベンダに申請
(申請内容, 方式は各社ともほぼ共通)

利用

- ・ 学内周知
- ・ 利用開始



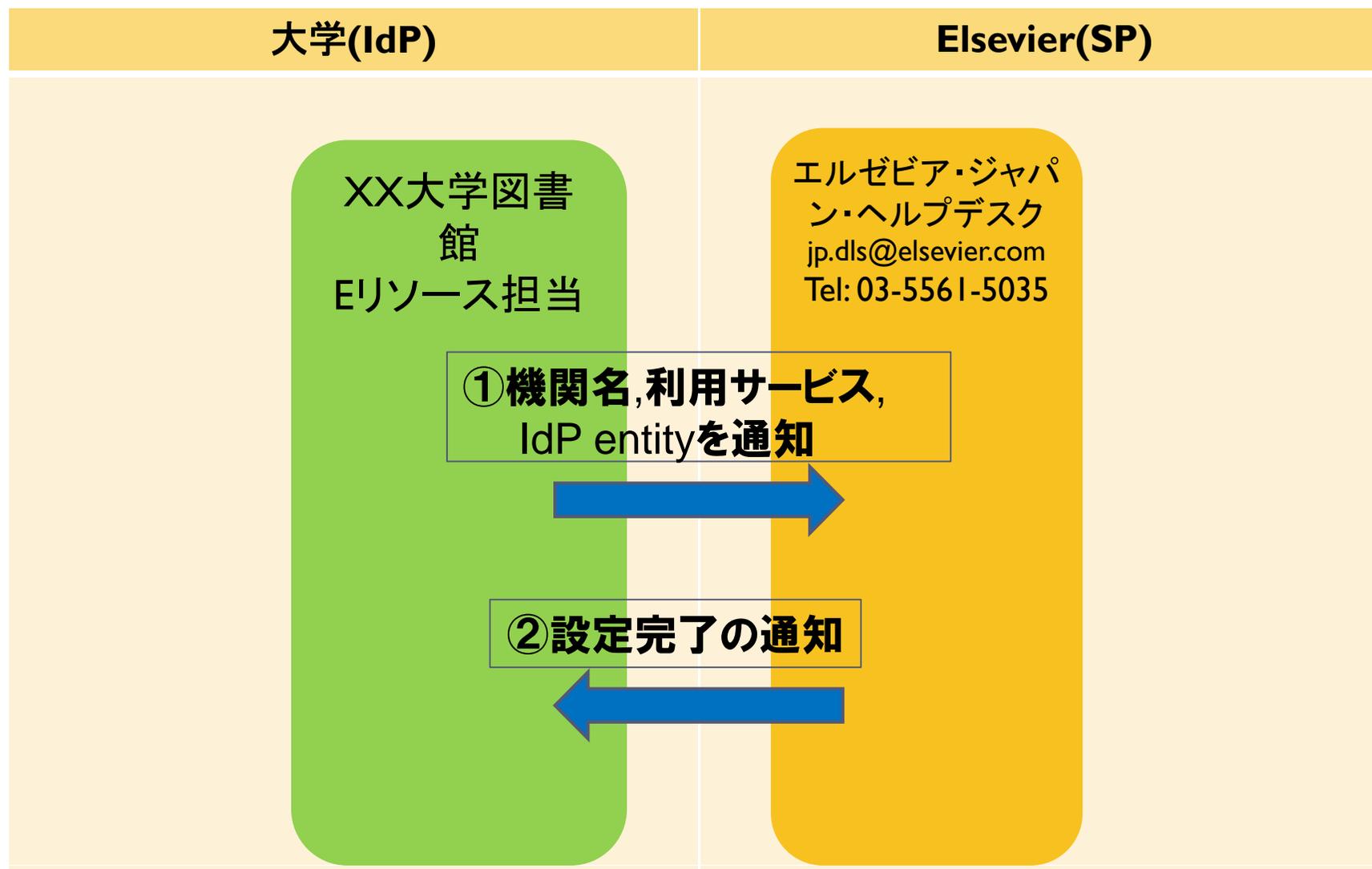
接続申請の具体例(5社)

- Elsevier (ScienceDirect, Scopus)
- Ovid (OvidSP)
- Springer (SpringerLink)
- Thomson Reuters (Web of Knowledge, EndNoteWeb)

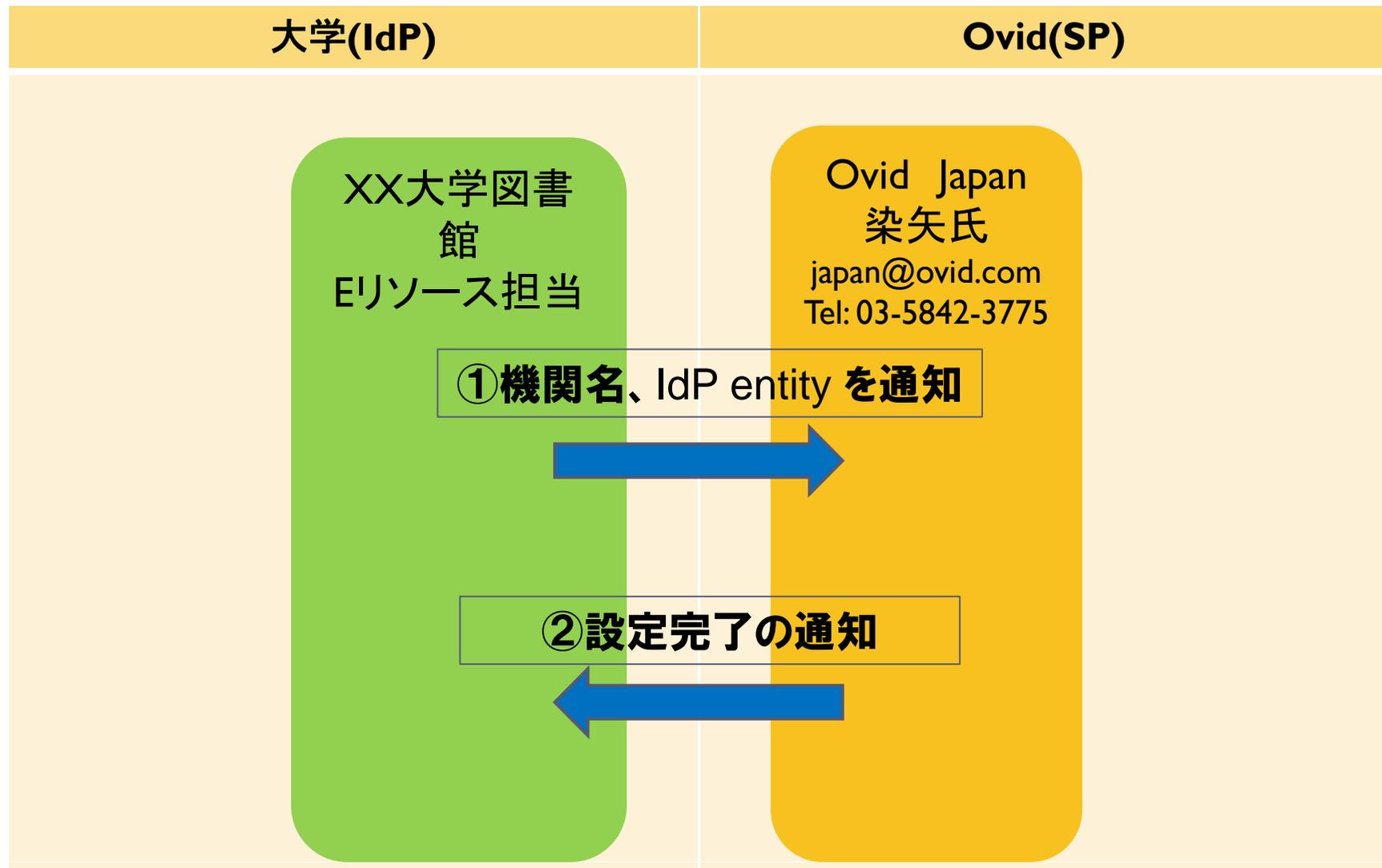
※アルファベット順

- NII (CiNii)

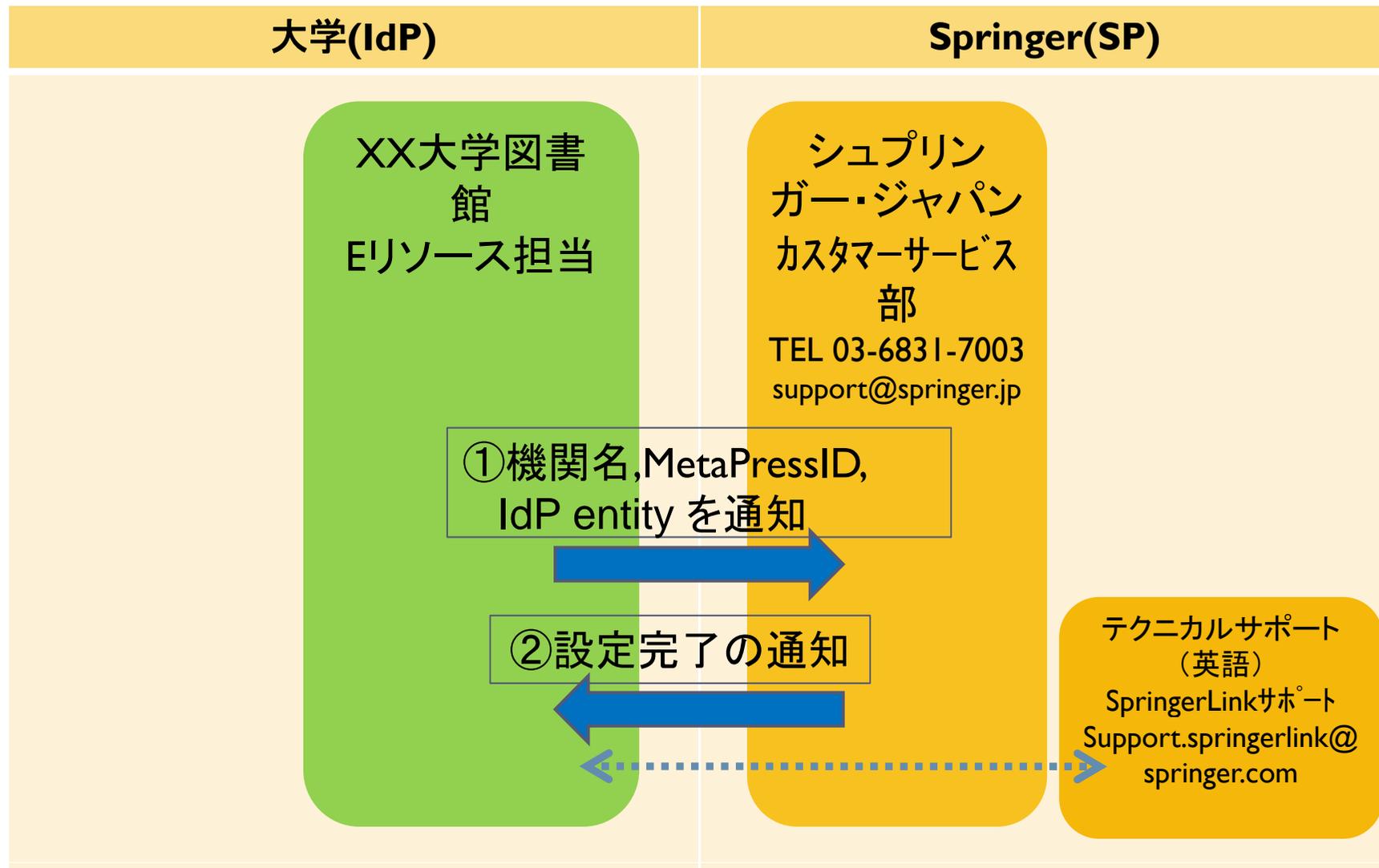
Elsevier(ScienceDirect,Scopus)の場合



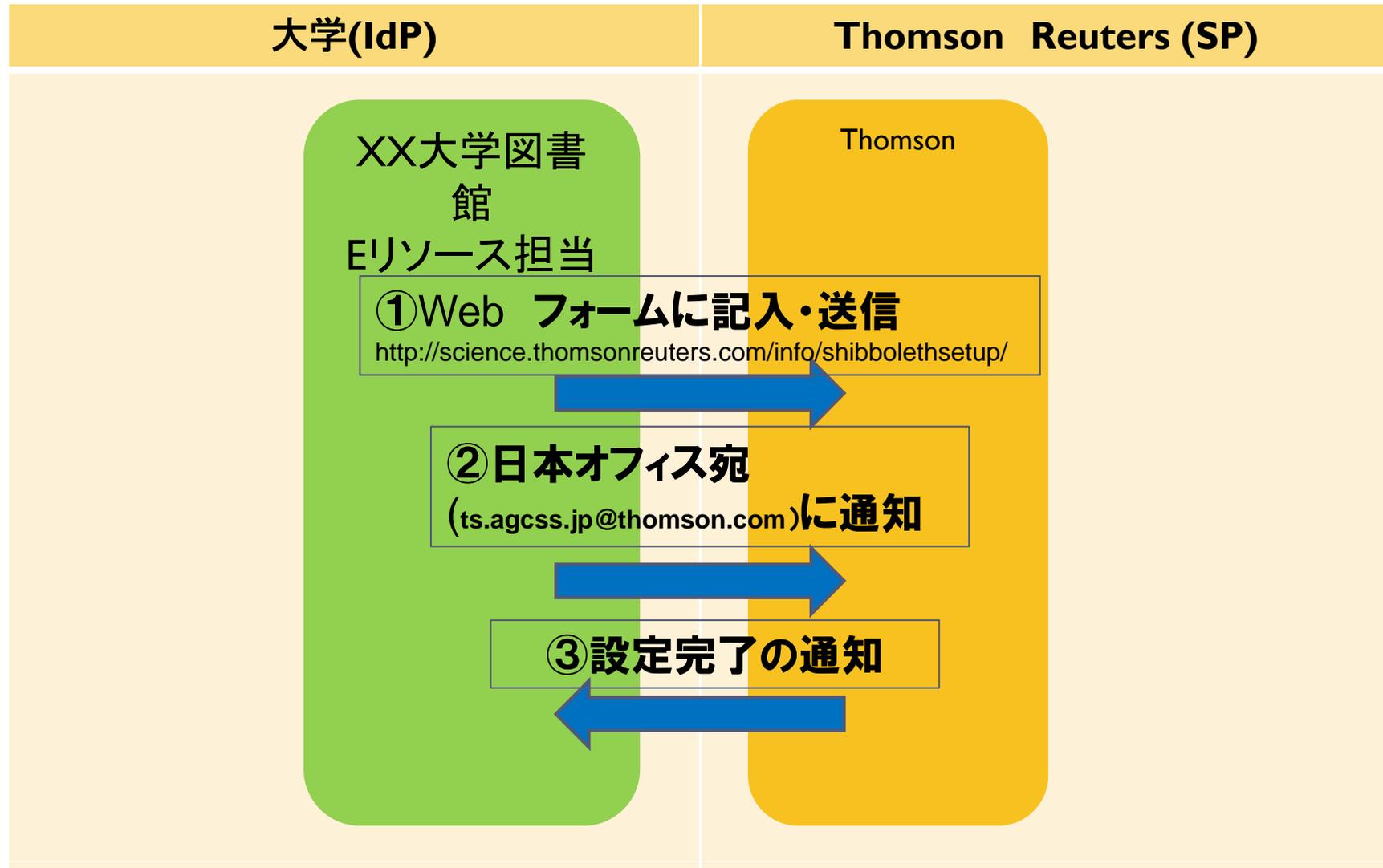
Ovid(OvidSP)の場合



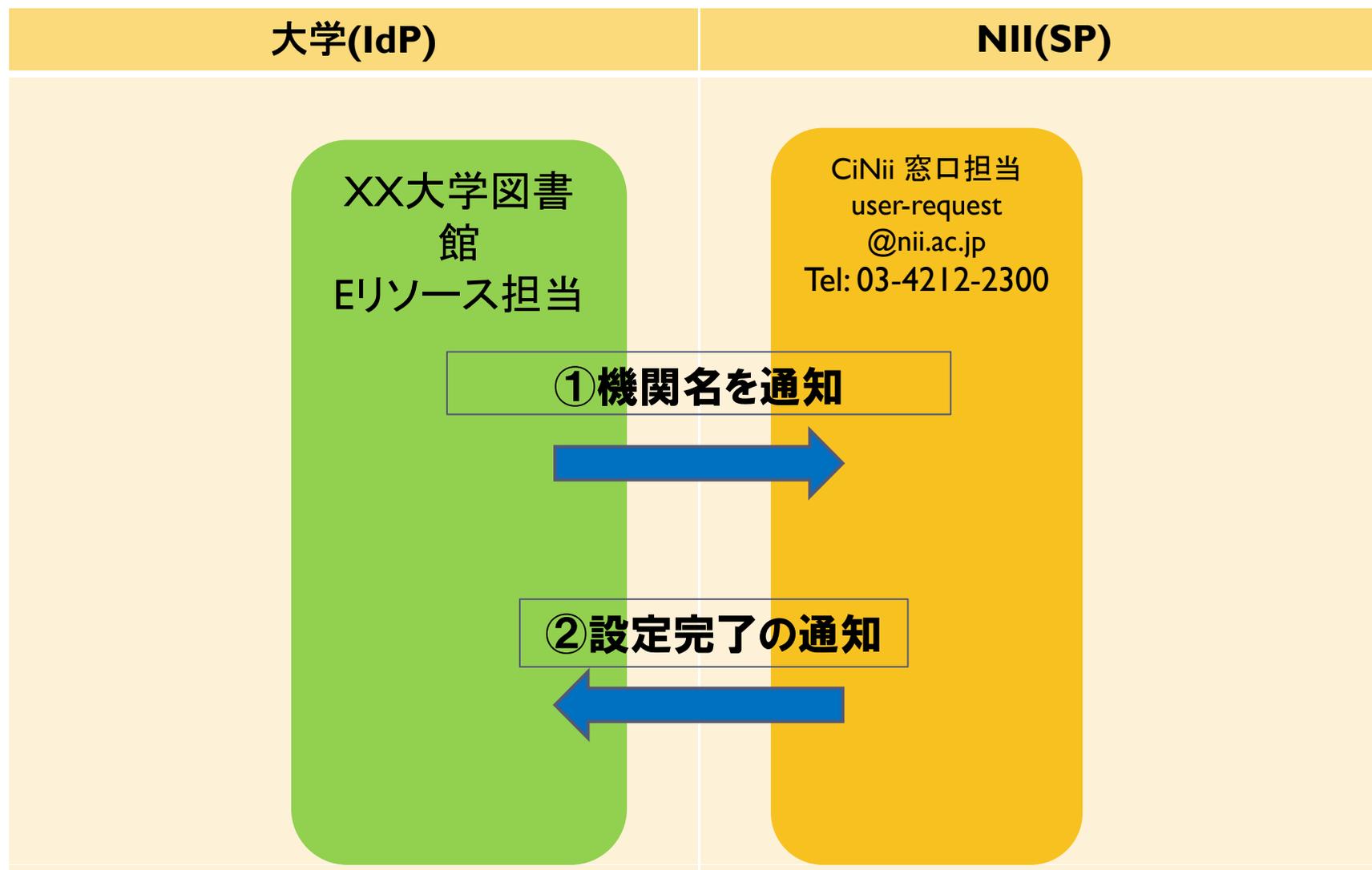
Springer(SpringerLink)の場合



Thomson Reuters (Web of Knowledge, EndNoteWeb) の場合



NII(CiNii)の場合



テストフェデレーション参加中or参加検討中のベンダ

(海外)

- Refworks
- EBSCO Knowledge
- CUP

(国内)

- **医中誌**Web
- Japan

etc • • • • •

図書館、IdP管理者向けの情報

- <https://upki-portal.nii.ac.jp/docs/fed/technical/connect/sp>
 - 各SPへの接続マニュアルを掲載。
 - フェデレーション参加SPの更新情報をMLで随時告知。
 - ここを見れば、とりあえず全SPへの接続方法がわかる、というページにする。



事例紹介

SSO導入 発展段階論

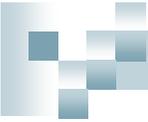
- (論外) 何もない(リモートIDなし。proxy乱立)
- (0) 何もない(リモートIDあり)
- (1) VPNを利用
- (2) EZproxy等を公認proxyとして利用
- (3) EZproxyをShibのSPとして利用
- (4) Federationに入ってShibでSSO実現

皆さんの大学は今どこまで来た？
これからどこを目指す？ (4)ですよねモチロン。



(論外) 何もない(リモートIDなし。proxy乱立)

- とある大規模な某大学
 - リモートID発行は図書館の負担になるので一切やらない。
 - 遠隔利用したければ勝手に研究室でproxy立てて使う。



(0) 何もない(リモートIDあり)

- 国内の多分100以上の大学
 - 現状維持で十分。
 - (1)が無い。
 - (2)を検討中。
 - (4)を目指す。



(1) VPNを利用

- 国内の多分10～50程度の大学
 - これで十分だ。
 - ユーザサポートが面倒
 - セキュリティ面の不安
 - (2)を目指す。
 - (4)を目指す。

(2) EZproxy等を公認proxyとして利用

- 国内のいくつかの大学
 - ユーザエクスペリエンスは確実に向上。
 - 初期導入費用は驚くほど安価
 - 図書館の負担は大
 - 自力構築、各種設定更新、サポートは英語オンリー
 - とりあえずここまで。
 - (3)を目指す。
 - (4)を目指す。



(3) EZproxyをShibのSPとして利用

- あの大学とあの大学が・・・
 - 次は(4)に進む？

(4) Federationに入ってShibでSSO実現

- ○○大、○大、NII、、、、
 - みんなのゴールというか出発点。
 - EリソースのSSO以外の用途
 - ・ OPACのマイアカウントで利用
 - ・ IRの登録用アカウントで利用
 - ・ 等々



ディスクアッション